



9月議会に注目

「垣老」拡充請願署名8500筆を超え 9月議会に提出

来年4月からいくつかの医療制度の改悪が行われ、その一環として70歳から74歳の医療費負担が1割から2割になります。「これでは安心してお医者さんにかかれない」と大垣の年金者の人々を中心となって「垣老」拡充請願署名運動が行われ、9月議会に提出されます。7月から開始された署名運動でしたが、短期間で8500筆を超える署名が集まりました。その背景には、次から次へと行われる国の医療制度の改悪に対する多くの人々の危機感があり、署名活動は急速に広がりました。

来年4月からの 医療改悪の数々

- ① 70～74歳、患者負担が1割から2割へ
(現役並所得のある人は既に3割負担)
- ② 後期高齢者医療制度の導入
 - ・ 75歳以上の全員から保険料の徴収
 - ・ 保険料は年金天引き
 - ・ 診療報酬の「包括払い」(注1)で高齢者に対し差別的医療を強いる
- ③ 国保の人も保険料は年金から天引き
- ④ 基本健診から特定健診(注2)に健診制度が変わる

大垣市は国の市民いじめの 医療改悪の防波堤に

小泉内閣の「構造改革」は、年金・医療・福祉など社会保障制度をばっさり切り捨て、暮らしや命・健康など最も重要な課題を地方自治体に押し付けてきました。さらに、教育費や生活保護費など憲法で規定されている国庫負担で行うべく内容まで「地方分権」の名のもとで地方に押し付けようとしています。

今こそ自治体が国の悪政に抗して住民の暮らしやいのち・健康を守る防波堤となるべき時です。今回の「垣老」拡充請願署名に託した市民の願いを大垣市がどのように扱うのか、多くの市民が注目しています。

大垣市は「垣老」を拡充し市民の生活と健康を守れ

「子育て日本一」とともに 福祉豊かな大垣市に

小川市政は若い世代の移住によるまちの活性化を期待して「子育て日本一」を掲げました。しかし本当にまちの活性化を実現するためには、「子どももお年寄りも大切にされる大垣」といった福祉豊かな大垣市にすることです。小泉構造改革以来貧困格差はすすみ、高齢者をはじめ多くの住民の生活は大変厳しくなっています。今こそ安心して住み続けられるまちづくりが求められます。「垣老」を拡充させることは、「福祉豊かな大垣」のイメージをつくり上げ、市政に対する市民の信頼を築いていく大きな役割を果たすのではないのでしょうか。

注1：包括払い

「何をやっても同じ診療報酬」。医療をすればするほど病院・診療所が赤字になるしくみで、高齢者の治療は敬遠される。また、特に入院は難しくなる。

注2：特定検診・特定保健指導

40歳～70歳を対象に、メタボリックシンドローム(内臓脂肪が溜まり、血圧、血中脂肪、血糖が高くなる状態)の予防だけに重点を置き、他の健診項目を切り捨てたもの。



市民病院前での署名風景